

四半期報告書

(第70期第3四半期)

自 平成29年10月1日

至 平成29年12月31日

トーイン株式会社

(E00713)

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	3
(2) 新株予約権等の状況	3
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	3
(4) ライツプランの内容	3
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	3
(6) 大株主の状況	3
(7) 議決権の状況	4

2 役員の状況

4

第4 経理の状況

5

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9

2 その他

12

第二部 提出会社の保証会社等の情報

13

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【四半期会計期間】	第70期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	トーイン株式会社
【英訳名】	TOIN CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 CEO兼COO 春 公明
【本店の所在の場所】	千葉県柏市新十余二16番地1
【電話番号】	04（7131）2111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員経営企画統括 坂戸 正朗
【最寄りの連絡場所】	千葉県柏市新十余二16番地1
【電話番号】	04（7131）2111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員経営企画統括 坂戸 正朗
【縦覧に供する場所】	トーイン株式会社 東京本社 （東京都江東区亀戸一丁目4番2号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第3四半期 連結累計期間	第70期 第3四半期 連結累計期間	第69期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	8,188,890	9,202,202	10,959,748
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△179,172	362,591	△127,924
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純損失 (△) (千円)	△45,078	189,042	△16,943
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	38,614	616,674	325,942
純資産額 (千円)	8,368,527	9,105,341	8,655,855
総資産額 (千円)	16,716,916	18,120,914	16,817,205
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期 (当期) 純損失金額 (△) (円)	△8.32	36.38	△3.16
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	49.9	50.0	51.2

回次	第69期 第3四半期 連結会計期間	第70期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (△) (円)	△1.68	14.02

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第69期第3四半期連結累計期間及び第69期の潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額については、1株当たり四半期 (当期) 純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第70期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ (当社及び当社の関係会社) が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、インバウンド需要の持ち直しやIT関連産業を中心に輸出が増加したことなどで緩やかに回復いたしました。地政学的リスクの高まりなど海外の政治・経済情勢に不安を抱える状況で推移いたしました。

包装資材業界においては、国内の雇用情勢は緩やかな改善傾向が続いたものの賃上げ率や賞与の伸び悩み、消費者物価の上昇、少子高齢化の進行による将来不安を背景とした節約志向などで個人消費は緩慢な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは営業・生産それぞれの組織の目的達成を重視する体制のもと引き続き各々の活動に注力してまいりました。その結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は9,202百万円（前年同期比12.4%増）、営業利益は353百万円（前年同期 営業損失67百万円）、経常利益は362百万円（前年同期 経常損失179百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は189百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失45百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

①包装資材事業

国内の売上高は、新規取引先開拓や既存客先からの受注拡大に向け、営業体制の強化を図り、当社技術のアピールや企画提案型の営業活動を継続的かつ、きめ細かく実施したことで、食品分野の売上が微減となったものの、化粧品分野の売上が好調に推移し、医薬品及び日用品の分野も底堅く推移いたしました。また、海外においても、特にベトナム現地法人（TOIN VIETNAM CO., LTD.）の売上が引き続き増収基調を維持したことなどにより売上高は8,108百万円（前年同期比10.3%増）となりました。

利益面については、ベトナム現地法人（TOIN VIETNAM CO., LTD.）は、売上が増収基調にあるものの、まだ固定費を回収するには至っておりませんが、生産ラインを増設するなど着実に生産性・採算性を向上させております。さらに、国内において次世代型印刷機の導入などの生産体制の整備や製造部門と製造間接部門が一体となった生産の効率化・安定化、品質保証の徹底などの諸施策を推進し、まだ不十分ではありますが製造コスト低減に貢献したため増益となりました。

②精密塗工事業

営業体制の強化や展示会出展によるマーケティング力強化などにより新製品の受注獲得に注力したことで売上高は606百万円（前年同期比62.2%増）となりました。

利益面については、売上高の増加や生産技術力の強化などによる生産の効率化などで増益となりました。

③その他事業

受託包装において安定的な定期品を受注したことなどで、売上高は487百万円（前年同期比4.8%増）となりました。

利益面については、主に売上高の増加により増益となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、43百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,850,000
計	21,850,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,377,500	6,377,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	6,377,500	6,377,500	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	—	6,377,500	—	2,244,500	—	2,901,800

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 1,158,200	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 5,218,400	52,184	—
単元未満株式	普通株式 900	—	—
発行済株式総数	6,377,500	—	—
総株主の議決権	—	52,184	—

- (注) 1 「完全議決権株式（自己株式等）」欄は、全て当社保有の自己株式であります。
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式52株が含まれております。
3 当第3四半期会計期間において自己株式の取得を実施したため、第3四半期会計期間末現在の「完全議決権株式（自己株式等）」は、1,344,200株であります。

② 【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
トーイン株式会社	千葉県柏市新十余二 16番地1	1,158,200	—	1,158,200	18.16
計	—	1,158,200	—	1,158,200	18.16

(注) 平成29年11月20日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期会計期間に次のとおり自己株式の取得を実施いたしました。

- ① 取得した株式の種類 普通株式
- ② 取得した株式の総数 186,000株
- ③ 取得価額の総額 108,810,000円
- ④ 取得日 平成29年11月21日
- ⑤ 取得方法 東京証券取引所自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による買付け

上記の自己株式の取得の結果、第3四半期会計期間末現在の自己株式数は、1,344,200株（発行済株式総数に対する所有株式数の割合 21.08%）であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、興亜監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,403,178	2,234,192
受取手形及び売掛金	2,579,892	※ 2,919,880
電子記録債権	911,364	※ 1,309,822
商品及び製品	391,039	360,673
仕掛品	339,861	401,581
原材料及び貯蔵品	202,218	268,376
その他	304,030	266,381
貸倒引当金	△1,000	△1,000
流動資産合計	7,130,585	7,759,909
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,811,340	1,733,345
機械装置及び運搬具（純額）	2,812,446	3,057,639
土地	2,319,579	2,319,579
その他（純額）	401,620	244,615
有形固定資産合計	7,344,986	7,355,180
無形固定資産	62,426	52,435
投資その他の資産		
投資有価証券	1,873,875	2,545,249
その他	404,711	408,139
投資その他の資産合計	2,278,586	2,953,389
固定資産合計	9,685,998	10,361,005
繰延資産	621	-
資産合計	16,817,205	18,120,914
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,372,767	※ 1,424,181
電子記録債務	1,424,888	※ 1,831,392
短期借入金	350,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	651,000	745,000
未払法人税等	84,179	100,551
賞与引当金	97,000	42,201
その他	887,598	※ 1,023,987
流動負債合計	4,867,433	5,517,313
固定負債		
長期借入金	2,389,000	2,419,000
退職給付に係る負債	251,293	230,796
役員退職慰労引当金	142,350	156,486
その他	511,273	691,976
固定負債合計	3,293,917	3,498,258
負債合計	8,161,350	9,015,572

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,244,500	2,244,500
資本剰余金	2,901,824	2,901,824
利益剰余金	3,371,453	3,485,023
自己株式	△603,179	△711,990
株主資本合計	7,914,598	7,919,357
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	699,478	1,135,661
繰延ヘッジ損益	△2,151	△1,534
為替換算調整勘定	124,158	109,027
退職給付に係る調整累計額	△121,174	△104,390
その他の包括利益累計額合計	700,310	1,138,763
非支配株主持分	40,945	47,219
純資産合計	8,655,855	9,105,341
負債純資産合計	16,817,205	18,120,914

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	8,188,890	9,202,202
売上原価	6,992,547	7,492,508
売上総利益	1,196,342	1,709,694
販売費及び一般管理費	1,263,797	1,355,784
営業利益又は営業損失(△)	△67,454	353,909
営業外収益		
受取利息	502	1,202
受取配当金	26,366	24,128
持分法による投資利益	-	37,663
その他	10,050	5,861
営業外収益合計	36,919	68,856
営業外費用		
支払利息	38,953	39,434
為替差損	105,109	18,009
その他	4,575	2,730
営業外費用合計	148,638	60,174
経常利益又は経常損失(△)	△179,172	362,591
特別利益		
固定資産売却益	8,989	816
投資有価証券売却益	147,839	-
保険解約返戻金	637	-
受取保険金	55,680	-
特別利益合計	213,147	816
特別損失		
固定資産売却損	392	19,923
固定資産除却損	24	4,786
弔慰金	10,000	-
その他	2,320	10,868
特別損失合計	12,738	35,578
税金等調整前四半期純利益	21,236	327,830
法人税、住民税及び事業税	36,062	118,536
法人税等調整額	27,428	15,496
法人税等合計	63,491	134,033
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△42,255	193,796
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,822	4,754
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△45,078	189,042

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△42,255	193,796
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	169,675	436,182
繰延ヘッジ損益	882	617
為替換算調整勘定	△111,896	△36,599
退職給付に係る調整額	22,208	16,784
持分法適用会社に対する持分相当額	-	5,892
その他の包括利益合計	80,870	422,877
四半期包括利益	38,614	616,674
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	40,556	610,155
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,941	6,518

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、関連会社であるPrinting Solution Co., Ltd.は重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形、電子記録債権及び電子記録債務の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形	—	96,937千円
電子記録債権	—	28,638
支払手形	—	102
電子記録債務	—	19,303
流動負債その他(設備関係電子記録債務)	—	1,024

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	528,722千円	551,079千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	41,019	7.5	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金
平成28年10月31日 取締役会	普通株式	27,346	5.0	平成28年9月30日	平成28年12月2日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	39,144	7.5	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	26,096	5.0	平成29年9月30日	平成29年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	包装資材	精密塗工	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,349,765	373,957	7,723,723	465,167	8,188,890	—	8,188,890
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	7,349,765	373,957	7,723,723	465,167	8,188,890	—	8,188,890
セグメント利益又は損 失(△)	369,432	△12,457	356,974	58,762	415,737	△483,192	△67,454

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品・化粧品・医薬部外品等の加工・セットを受託するほか、販促品等の商品を販売しております。

2. セグメント利益又は損失の調整額△483,192千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年12月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	包装資材	精密塗工	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,108,082	606,630	8,714,713	487,488	9,202,202	—	9,202,202
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	8,108,082	606,630	8,714,713	487,488	9,202,202	—	9,202,202
セグメント利益	611,111	156,271	767,382	74,639	842,021	△488,112	353,909

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品・化粧品・医薬部外品等の加工・セットを受託するほか、販促品等の商品を販売しております。

2. セグメント利益の調整額△488,112千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)	△8円32銭	36円38銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△) (千円)	△45,078	189,042
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	△45,078	189,042
普通株式の期中平均株式数(株)	5,420,174	5,195,826

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成29年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………26,096千円

(ロ) 1株当たりの金額……………5円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成29年12月5日

(注) 平成29年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月8日

トーイン株式会社

取締役会 御中

興亜監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 近田 直裕 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柿原 佳孝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトーイン株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、トーイン株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【会社名】	トーイン株式会社
【英訳名】	TOIN CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 CEO兼COO 春 公明
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	千葉県柏市新十余二16番地1
【縦覧に供する場所】	トーイン株式会社 東京本社 (東京都江東区亀戸一丁目4番2号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長CEO兼COOである春公明は、当社の第70期第3四半期（自平成29年10月1日 至平成29年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。